

施工マニュアル リフレIIパック ■ KH-RPA series

この度は、弊社商品をご採用いただき誠に有難う御座います。商品を正しく施工して頂くために、この施工マニュアルを良くお読みの上、作業をおこなってください。
 本書に記した注意事項は、商品の性能・機能及び強度や安全性を確保する上で重要な事項ですので必ずお守り下さい。
 施工は専門業者が必ず行ってください。専門知識のない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。
 このマニュアルは施工後必ずお客様へお渡し下さい。

施工上の注意事項 (必読)

- ・カラーパウダーを散布する、ならびにシーラー塗布の際、養生及び、近隣への配慮を充分に行うこと。
- ・雨天時、そして雨天と予測される日には原則として施工しないこと。
- ・夏期の施工においては、施工基材表面温度を上げすぎないよう、シート等でテントを作る等の工夫をし、直射日光を避けて施工すること。
 材料も日陰に保管する。カラーパウダーは混練後30分以内に塗布すること。糊付きステンシルは塗布直前に設置、塗布後速やかに撤去すること。
- ・冬期、基材表面がすでに凍結している場合、もしくは施工中及び施工後12時間以内に5℃以下になると予想される場合は施工しないこと。
- ・出来るだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じてマスク、保護手袋等を着用すること。
- ・取扱後は、手洗い及びうがいを十分に行うこと。
- ・皮膚に付いた場合は、速やかに多量の水で洗い、かゆみや炎症が残った場合は、医師の診断を受けること。
- ・万一眼にはいった場合は、多量の水で洗い流し、出来るだけ早く医師の診断を受けること。
- ・一定の場所を定め、密閉し、高温、直射日光を避け保管すること。
- ・子供の手の届かないところに保管すること。
- ・内容物は、許可を受けた専門業者に産業廃棄物として委託すること。
- ・容器は丁寧に扱い、内容物をこぼさないこと。
- ・容器は中身をすべて使いきってから廃棄すること。
- ・シーラーは火気のあるところでは、使用しないこと。
- ・シーラーの取扱作業所では、十分な換気またはその設備があること。
- ・シーラーの取扱作業中は換気をよくし、蒸気を吸い込まないこと。
- ・シーラー塗布の際、蒸気を吸って気分が悪くなった時や、誤って飲み込んだ場合は、出来るだけ早く医師の診断を受けること。
- ・火災時には、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を用いること。

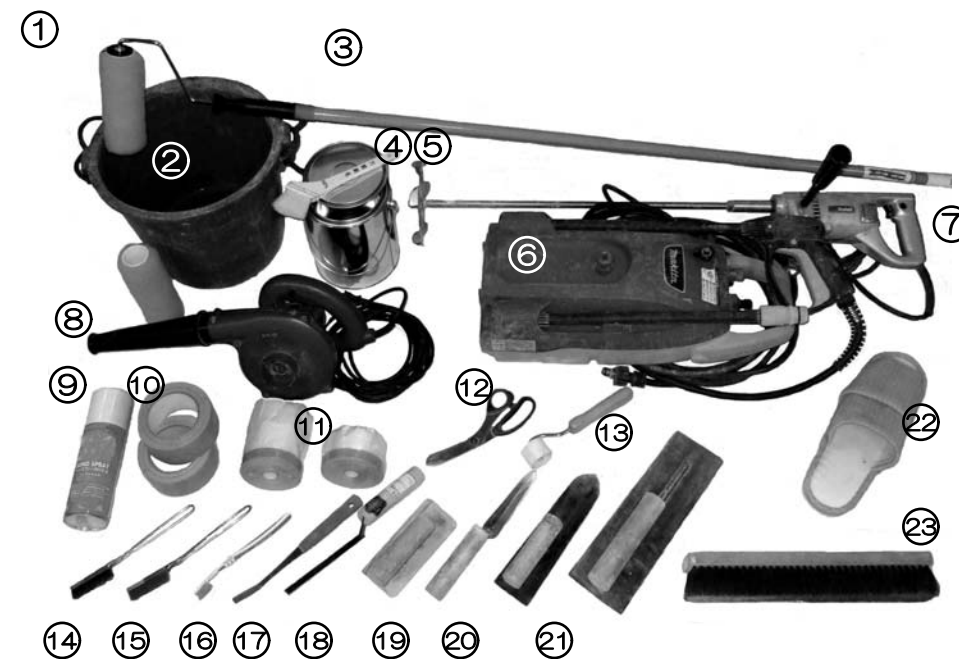
梱包明細 KH-RPA series

商品名			仕様用途など
ベースカラー (目地用)	10	kg	着色の際に目地となるカラーパウダー
トップカラー	20	kg	着色の際に主となるカラーハードナー
ポイントカラー①	1.5	kg	着色の際にポイントとなるカラーハードナー
ポイントカラー②	2.5	kg	着色の際にポイントとなるカラーハードナー
モデファイヤー	650	ml	着色の前に施工表面に塗付 (散布) する
ウェットシーラー	4	ℓ	表面保護材1回目に塗付する
ノーマルシーラー	4	ℓ	表面保護材2回目に塗付する
目地テープ (布タイプ)	1	巻	お好みで目地・施工範囲の端に使用
ナイロン手袋	1	組	施工時に使用してください
簡易マスク	1	個	施工時に使用してください
ポイント用ふるい	1	個	施工時に使用してください
施工説明書	1	部	本書

1、施工の前の事前準備

1 必要道具

- ① ペイント用ローラー
- ② バケツ (4~6個)
- ③ ローラー用のハンドル
- ④ ペイント用刷毛
- ⑤ ペール缶
- ⑥ 高圧洗浄機
- ⑦ 攪拌機
- ⑧ ブロワー
- ⑨ スプレーのり
- ⑩ 布製ガムテープ
- ⑪ マスカー(1100/550mm)
- ⑫ はさみ (人数分)
- ⑬ ローラー
- ⑭ ワイヤブラシ (硬)



- ⑮ ワイヤブラシ (軟)
- ⑯ 歯ブラシ
- ⑰ コーキングヘラ
- ⑱ 目地ゴテ
- ⑲ 面取り
- ⑳ 笹葉
- ㉑ 金ゴテ
- ㉒ スリッパ
- ㉓ 2丁刷毛

2 施工日までに

- ・ご発注頂いた商品(品番)と本商品(品番)が一致しているか、ならびに、本商品内容に問題が無いかをご確認下さい。
- ・お施主様との仕上がり色のご確認、もしくは施工者本人のご確認のため、事前にサンプル作成をされることをお勧め致します。
- ・リフレコートIIは厚み2~3mm程度の装飾材です。
 よって、クラック補修を行った後に、当施工を行った場合においても高確率で、再度同所にクラックが現れる場合があります。この点につきましてお施主様には施工前に必ずご説明下さい。
- ・リフレコートIIは壁面施工も可能ですが、その際はその着色方法等施工について、事前に十分な知識、技術を得、考慮された上で施工を行ってください。
- ・打設間もないコンクリートであっても、レタンス等の不純物が付着していますので必ず洗浄作業は行って下さい。
- ・屋上に施工される場合、防水材としての使用はできませんが、防水処理が施されている場合には使用できます。
 その場合ベースコートをしっかり塗布し、シーラー塗布の際には防水材とシーラーが混ざらないよう注意して下さい。
- ・その他、ご不明点につきましてはご相談下さい。

2、施工手順

1、洗浄

推奨時間(前日可)

夏 7:00～8:00

春秋 7:00～8:00

冬 7:00～8:00

高圧洗浄機を用いて
確実に基材表面の不純物を
取り除く



▼写真



▼図解

新設のコンクリートの場合でもレイタンス等
不純物が表面に付着しているため
洗浄は必ず行うこと

POINT

施工後の剥離の原因となるので苔等も含め
表面の不純物を完全にすること

2、養生

推奨時間(前日可)

夏 8:00～8:30

春秋 8:00～8:30

冬 8:00～8:30

前日行う場合は洗浄後

マスカー・ガムテープを用いて
仕上げ面より下にならない様に
丁寧にはりつける



現場には風もあるのできわめて丁寧に

POINT

湿気によりつかない場合は、ガスバーナーや温風で、
乾燥させる。
仕上がりを考え、施工中に剥がれないように丁寧にすること。

3、モデファイヤー塗布（散布）

推奨時間(前日可)

夏 8:30～9:00

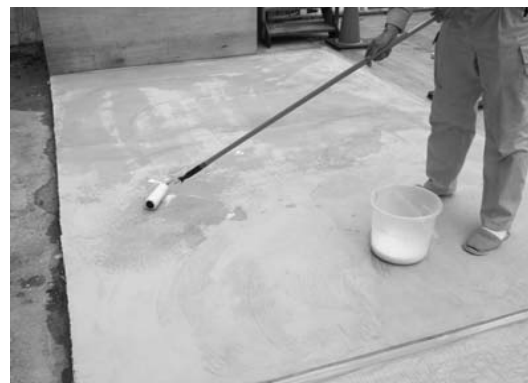
春秋 8:30～9:00

冬 8:30～9:30

前日行う場合は養生後

- 3-1 モデファイヤーの容器に
水を1300cc加え、
希釈液を作る。
- 3-2 家庭用の噴霧器又は
塗料用のローラー、ハケで
基材表面全体に隈なく塗る

- 3-3 乳白色（白濁）のモデファイヤーが青白く反応した後
透明になり完全に乾いた状態になるまで待つ



ムラ無く丁寧に塗付しましょう

POINT

次の工程（5 ベースコート塗布）は、モデファイヤー散布後12時間以内に行うこと

モデファイヤーが完全に乾燥した後であれば、
雨等の水分による効力の低下はないが、
次の工程（5 ベースコート塗布）は、乾燥し不純物がない状態で行うこと

4、ベースカラー混合

必要材料（目安）

ベースカラー 10kg

水 3リットル

モデファイヤー希釈液 100cc

- ①清潔なバケツ等水を入れる
- ②少しずつベースカラーを加えながら攪拌機を使って混ぜる
- ③モデファイヤーの希釈液を入れる
- ④全ての材料が均質になるように完全に混合する

POINT

水の量は気温及びリフレコートII専用カラーの状況等によって調整すること。
特に気温の高い場合、及び乾燥した風が吹いている場合はその水分量に注意する。

水の量が少ないと薄く均等に塗布する事ができない。

又、水の量が多すぎると桂砂等が分離し、その残留物がバケツの中及び施工した表面に現れる原因となり、養生後の褪色の原因となるので注意すること。

材料の混合は、当面使用する量だけにし、

5分以内に使用しない場合には必ず再混練してから使用する。

混練時間の合計が60分を超えないこと。過剰な色違い等が発生する原因となるため。

5、ベースコート塗布

推奨時間(前日可)

夏 9:00～10:00

春秋 9:00～10:00

冬 9:30～10:30

前日行う場合は3乾燥後

仕上げコテ
(0.5m/m程度の波消し等)で
基材表面に着色するように
限りなく薄く塗布していく



この作業により若干コテムラが残った表面を作ることができる

POINT

ガイドの桂砂がベースカラーの顔料の粒子より小さいため、
作業中に顔料の粒子がつぶれ原色が現れる事がある。その際は軽くコテですりつぶすように消し均すこと。
ベースカラーは目地色なので完成後はほぼ目立たないが、
どうしても目立つ場合は先端の細い歯ブラシ等を使い同じベースカラーをタッチアップして消すようにすると良い。

ベースコートが完全に乾燥した事を確認し、その時点で大きな凹凸があればコテやスクレイパー等で削り落とし、
余分な埃等の不純物をブロワーで必ず吹き飛ばすこと。この作業を怠ると、ステンシルが設置し難くなる。

6、糊付ステンシル貼り付け

推奨時間

夏 10:00～11:00

春秋 10:00～11:00

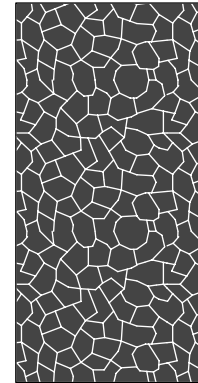
冬 10:30～13:00

前日までに3を終えている場合、時間の繰上げは可能

デザインや割り付けを考慮しながら
ステンシルを設置する



▼写真



▼図解

設置したステンシルは踏まないように

6-1 まず、剥離紙を剥がさずに糊付けステンシルを施工場所に合わせながら広げ、若干長めにハサミでカットする

6-2 カット後、ステンシルがちぎれないように丁寧に剥離紙をめくり、手やミニローラー等で押さえながら施工面に設置する

POINT ステンシルが長く設置しづらい場合は、貼りやすい長さにかットしたうえで、通り等に気を付けながら確実に設置する。

設置したステンシルの上を歩かない。ステンシルの撤去作業がしづらくなるため。特に温度の高い場合は徹底すること。

温度の低い時など、ステンシルが付きづらい場合は、温風器（工業用ドライヤー）等で温めながら行くと設置しやすくなる。

微妙な基材表面の不陸やステンシルの寄り等により、2列目以降のリターン時にパターンが合いづらい場合があるが、その際に次列とのジョイント部分のラインは極力細工しないこと。

上記次項も含め、ステンシル設置作業は、季節や現場状況、地域によって大きく異なるので、事前に認識すること。

※糊付きステンシルの接着力は季節・気温・施工面の温度等によって大きく異なりますのでご注意ください。

7、再度モデファイヤー散布（塗付ではない）

7-1 糊付けステンシルの設置終了後、それらの浮きや剥がれがない事を確認し表面のゴミや埃等の不純物をブロワーで吹き飛ばします

7-2 7-1が完了したことを確認し、希釈したモデファイヤーを噴霧器により散布する

POINT この時の噴霧では、モデファイヤーが水溜りの状態にならないよう注意すること。モデファイヤーがステンシルの下部への滲入するのを防ぐため。

上記の理由により、2回目のモデファイヤー散布には、塗装用のローラーやハケ等の使用は原則として不可。

7、トップカラー混合

必要材料（目安）

トップカラー 20kg

水 4.5リットル

モデファイヤー希釈液 200cc

- ①清潔なバケツ等水を入れる
- ②少しずつベースカラーを加えながら攪拌機を使って混ぜる
- ③モデファイヤーの希釈液を入れる
- ④全ての材料が均質になるように完全に混合する

POINT 混合方法、その他注意事項は、4、ベースカラー混合 を参照のこと

8、トップコート塗布及びポイント着色

推奨時間

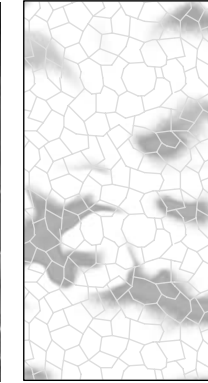
夏 11:00～12:00

春秋 11:00～12:00

冬 13:00～14:00

前日までに3を終えている場合、時間の繰上げは可能

トップコートを2～3m/mの厚みで塗布しポイントカラー①及び②をポイント用ふるいに入れ仕上がりを意識しながら全体にふりかける



▼写真

▼図解

POINT ガイドの桂砂がトップカラーの顔料の粒子よりも小さいため、作業中に顔料の粒子がつぶれ原色が現れる事がある。その際は軽くコテですりつぶすように消し均すこと。

ポイントカラーは1㎡あたり 合計200～300g程度を目安として散布する

ポイントカラーは塗布したトップコートの水分を利用し、定着させていく。よって、トップコート塗布からポイントカラー散布までの時間が長くなるとポイントカラーが定着しづらくなる。トップコート塗布とポイントカラー散布は交互に繰り返して作業を進めること。

9、表面の風合い仕上げ及び糊付ステンシル除去

推奨時間

夏 11:00～13:00

春秋 11:00～13:00

冬 13:00～15:00

前日までに3を終えている場合、時間の繰上げは可能

2丁ハケ等で散布したポイントカラーを軽くこすりながらトップコート表面になじませ余分なカラーをはき取るその後ステンシルを順序よくはがしていく



▼写真

▼図解

POINT スリッパ等の裏底部分がソフトで平らな履物で施工表面にのれる程度の湿り具合であれば表面処理の(この工程に取り掛かれる)準備が出来たことを示す

ステンシル除去時に出る余分なガラを踏まないように注意すること。

10、ブロー作業、目地補修

推奨時間

夏 14:00～14:30

春秋 14:00～14:30

冬 15:00～15:30

前日までに3を終えている場合、
時間の繰上げは可能

ステンシル撤去後、やわらかいほうき等を使い口を整え
全体にブローをかけ余分なガラを吹き飛ばす

目地部分にトップコートカラーが入り込んだ場合は
目地ゴテ等で軽く削りながらベースコートの層を出す



POINT 表面にある、ゴミ・チリ類は踏まないこと

11、ウェットシーラー塗布 (必ず4～10施工当日に行う)

推奨時間

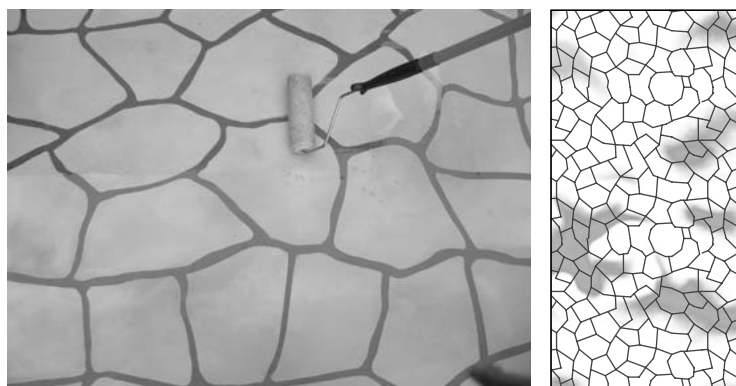
夏 15:00～15:30

春秋 15:00～15:30

冬 15:30～16:00

前日までに3を終えている場合、
時間の繰上げは可能

塗装用のローラー・ハケを用意し表面に
たっぷりの量のウェットシーラーを
しみこむ様にゆっくりと丁寧に塗付する



シーラーを塗付したところは踏まないように

POINT 壁とのとりあい等、端場はハケを用いて丁寧に。また道路等、周囲に誤って付着させないように気をつけること。

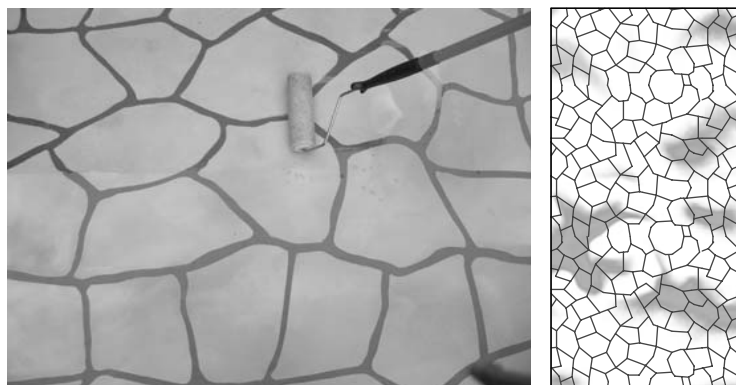
12、ノーマルシーラー塗布

推奨時間

工程11終了から4時間後以降(必須)

再度、塗装用のローラー・ハケを用意し
ノーマルシーラーを丁寧に塗付する

POINT 壁とのとりあい等、
端場はハケを用いて丁寧に。
また道路等、周囲に誤って
付着させないように気をつけること。



シーラーを塗付したところは踏まないように

お施主様が使用開始される2日前までに完了させること。

表面がぬれている状態ではシーラー塗布はできませんので、雨の日には無理です。
乾燥した状態で塗布して下さい。

ウェットシーラーの重ね塗りは出来ません。
2回目の塗布にはノーマルシーラーを使用して下さい。

お客様へ

この度は、弊社商品をお買いいただき誠に有難う御座います。
商品を末永くご愛用いただくために、下記の事項にご留意くださいますようお願い申し上げます。

■ 施工上のご注意

- 商品の施工に関しましては必ず本書にて前述しております『施工上の注意事項』ならびに『施工手順』に従ってください。
みだりに変更をしないで下さい。
- 凍結又は濡れた表面には施工できません。施工表面が施工時点で5℃以下又は、施工後24時間以内に5℃以下になると
予測される場合には施工できません。又気温の高い夏季等、施工表面が35℃以上の高温の場合にも施工できません。
又、施工後12時間は湿度が当たらないようにして下さい。
- 軽い歩行交通は、12～24時間程度、車両を含む重量交通は72時間程度、養生する必要があります。
製品の養生は紫外線と湿度を含む施工状況に関係しています。
- 施工中、全てのツールを清潔にしておいて下さい。例えば、バケツは前の製品が今回混合する製品の汚れ(不純物)と
ならない様に注意して下さい。また、作業を無駄なく敏速にできるように、コテや攪拌機等のツールを常に清潔にして
おいて下さい。又、現場の清掃作業を最小限にするために、材料を配分する場所は特に養生に気を付けて下さい。
- 施工中、全てのツールを清潔にしておいて下さい。例えば、バケツは前の製品が今回混合する製品の汚れ(不純物)と
ならない様に注意して下さい。また、作業を無駄なく敏速にできるように、コテや攪拌機等のツールを常に清潔にして
おいて下さい。又、現場の清掃作業を最小限にするために、材料を配分する場所は特に養生に気を付けて下さい。
- 周辺に色がついた場合、デッキブラシ等でこすりながら水で洗い流して下さい。
ユーロクリートⅡ専用カラーはパウダー状なのでアスファルト等に付着すると
汚れは取りにくくなりますので、事前に養生をしっかりと行っておくことをお勧めします。

■ 施工上のご注意

- 通常は水洗いだけで十分です。汚れのひどい場合は、ナイロンブラシ等で軽くこすって下さい。
洗剤を使用する場合は、植物性等の中性洗剤をご利用下さい。

■ 修理・サービスについて

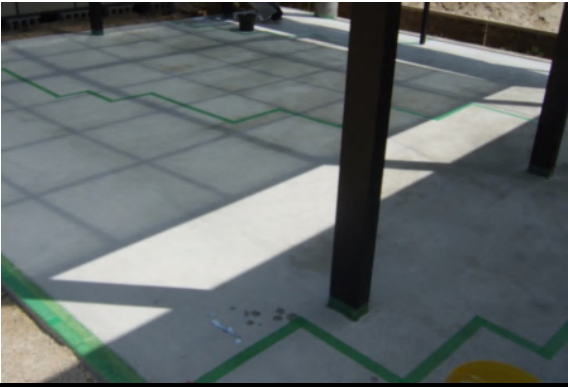
- 万が一、商品に以上が生じた場合は取り付けられた施工店様、もしくは弊社までご相談下さい。
- 修理等を依頼される場合には、以下の内容についてお教え下さい。

故障の状況 ・ 製品名 ・ 施工日 ・ お名前 ・ ご住所 ・ お電話番号

お問い合わせは

TRUE COLOR
AND TRUE DESIGN

リフレコート 施工手順



① 洗浄、補修、乾燥後に養生



② モデファイヤー希釈液を塗布



③ ①カラーパウダーと水を混練しベースコートを作成



③ ②コテでベースコートを薄くしごくように塗布



④ ステンシル設置
⑤ モデファイヤー希釈液を軽く塗布又は霧吹きで塗布



⑥ ①カラーパウダーと水を混練してトップコートを作成し
コテでテクスチャーをつけながらトップコートを塗布



⑥ ②トップコートを塗布しながら好みの色
茶こし等で散布



⑦ ある程度乾いたら刷毛で馴染ませステンシルを除去



⑧ 一回目、ウエットシーラーを塗布



⑨ 乾燥後、二回目、ノーマルシーラーを塗布



⑩ 完成